

ささえ、ささえられて
ホッと、安心～みんなの笑顔

知ってほしい 福祉の**話**

このコーナーでは、福祉の制度やよくある質問についてお知らせします。

第23回目は【精神障がい者とその家族を支援する施設「ホーリークロスセンター」の紹介】です。

ホーリークロスセンターは、日常的な相談対応、日常生活の支援、地域交流活動などを通じて精神障がい者とその家族を支援する、障害者自立支援法に基づく指定相談支援事業所兼地域活動支援センターです。

◇運営とスタッフ

ホーリークロスセンターは、土岐市を含む東濃5市の委託事業として、医療法人社団聖泉会により運営されています。精神障がいなどに関する専門の相談員・指導員がスタッフとして利用者の支援をします。

◇対象者

精神障がい者とその家族およびこれらの方と交流したい方

◇利用料

利用は原則無料です。ただし、行事参加などで実費を負担していただくことがあります。

◇サービス内容

①生活相談事業

日常生活や仕事、福祉制度などに関する相談に対して、面談および電話、訪問により対応します。

②生活支援事業

日常生活に即した課題に対し、支援および各種生活情報の提供を行います。また、仲間づくりやサークル活動など自発的な活動を支える場の提供を行います。

③地域交流活動推進事業

レクリエーションやひな祭りなどの季節行事を企画・開催しています。また施設の活動室を交流の場として開放し、多くの方々が利用しています。

よくある質問

Q. 自分の子どものことは相談できますか？

A. はい、できます。ご家族の方の支援もしています。精神障がいの専門相談員がお話を伺います。

Q. 私は精神に障がいを持ち、人と一緒に過ごすことにとっても不安を感じていますが、皆さんと一緒に行事に参加できるでしょうか？

A. 同じような不安をお持ちの方も参加され、楽しんでいきます。いろいろな行事を開催していますので、スタッフに相談して興味のあるものに参加してください。

■問い合わせ ホーリークロスセンター(☎0602)

一人ひとりが人権を
尊重する社会を目指して

人権のひろば



【人権に関する市民意識調査の結果】

前回は、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」「人身取引」についてお知らせしました。今回は「人権啓発活動」についてお知らせします。

※調査結果は、市ホームページでもご覧になれます。

人権意識を高める方法

回答は、上位から「学校での教育」(57.7%)、「行政による啓発活動」(49.8%)、「家庭や地域での教育」(43.2%)の順となっています。年齢層で見ると、「学校での教育」という回答は、若年齢層ほど多く、逆に「行政による啓発活動」は、高年齢層の方が多くなっています。

町別で見ると、鶴里町・曾木町では「家庭や地域での教育」が最も多く、ほかの町では「学校での教育」という回答が、最も多くなっています。

人権教育・人権啓発の方法

回答は、上位から「学校・職場・地域など単位での研修会の開催」(31.1%)、「『広報とき』やホームページの活用」(21.6%)の順となっています。

年齢層で見ると、「『広報とき』やホームページの活用」は高年齢層の方が多く、逆に「学校・職場・地域など単位での研修会の開催」という回答は、若年齢層の方が多くなっています。

人権問題に関する活動への参加状況

回答は、上位から「関心はあるが、参加したことはない」(44.2%)、「関心がないので、参加したことはない」(24.1%)の順となっています。

参加したことがないという回答が多数を占めていますが、「関心はあるが、参加したことはない」という回答は高年齢層ほど多く、「関心がないので、参加したことはない」という回答は、若年齢層の方が多くなっています。